

留原のむかしの道を歩こう

～ 八王子から五日市へ ～



大日本帝國陸地測量部発行 五万分の一地形圖「五日市」明治四十年測圖より

令和4年5月9日(月)

雨天の場合5月11日(水)

あきる野市 中央公民館



コース概要

※徒歩約 6.5 km

武蔵五日市駅【集合】(9:26発バス)→今熊山登山口バス停→旧々道(馬車道跡)と石灰岩の壁→今熊山登山口バス停→旧道の小峰隧道→古道の小峰峠馬頭観音→小峰公園桜尾根→八坂神社→小峰公園ふれあい広場【昼食】→留原あちこち(道祖神道標・珪化木百番供養塔・地藏院跡と八坂神社跡・篠村家道標・珪化木寒念仏塔など)→小林坂旧道→あゆみ橋→栗島神社→富田屋横丁→五日市ひろば【解散】(15時半予定)

《参加者のみなさんへお願い》

- 歩行中は1列または2列で歩き、安全にご配慮ください。
- 路傍の野草など、植物を採取しないでください。
- 地元の人たちのご理解・ご協力をいただき探訪します。ご迷惑にならないようお気を付けください。
- 記録写真を撮る場合がありますので、ご了承ください。



市民解説員は、ふるさと“あきる野”を愛し、わたしたちの地域の自然・歴史・文化の再発見につとめるとともに、これを地域のみなさんに紹介し、まちづくりと生涯学習の推進を図る学習ボランティアです。

あきる野市は、自然や遺跡、文化財の宝庫です。この美しく恵まれた環境のもとで、地域のみなさんと一緒に学びあい、活動できることをうれしく思います。今後ともよろしくお願いいたします。

池田 美智子、板花 利子、大澤 タ希子、佐藤 直久、竹之内 正雄、中田 美穂子

協力：小峰公園・小峰ビジターセンター

【参考資料等】 留原のあゆみ、五日市の石仏、あきる野市の石造物、五日市町の古道と地名、郷土あれこれ、五日市町史、新編武蔵風土記稿、小峰だより、その他。
留原・小和田・高尾および八王子市上川町畳が原にお住まいの皆さんのお話。

● 江戸時代の留原村（新編武蔵風土記稿）

古くは「止原」「戸津原」と呼ばれた。天文20年(1552)の『廣徳寺寺領書立文書』に戸津原とある。

民家50軒。地形は南東から西まですべて山続きで北にわずかに平地。秋川の両岸すべて織物を産業とする。中でも染色が特に良い（※織物とは黒八丈織のことと思われる）。村の西の方に一條の道。南の川口村小峯峠から北の秋川を渡り五日市村に至る。

● 三ツ里（みつさと）村

明治22年(1889)町村制施行により留原・高尾・小和田の3村が合併して誕生(当時は神奈川県)。大正7年(1918)明治村とともに五日市町に合併するまで29年間存在した。

● 古甲州道

戦国時代まで武蔵と甲斐を結んだ道。武田氏と後北条氏の戦いの際の移動路であり、物資交流の要路でもあった。江戸時代に甲州街道が整備されてからも、甲州裏街道(古甲州道や中甲州道とも)と呼ばれた重要な生活道。網代、高尾から留原を横断して小和田へ。さらに戸倉、小宮から檜原の浅間尾根、小菅の大菩薩峠を経由して古府中(甲府)へ至る。

● 八王子道

小峰峠を越えて五日市と八王子を結ぶ重要な生活道。戦(いくさ)道でもあったかもしれない。かつて五日市は八王子の経済圏にあり、五日市鉄道開通までは、この道を利用した八王子との産業や人的交流が盛んに行われていた。

小峰峠越の道は、時代や交通手段によって次第にルートが変わっていく。

1. 富田屋横丁を起点に徒歩または裸馬に荷を積んで越えた古道。
2. 小峰峠の難所を明治中頃の数年の間だけ乗合馬車が走った旧々道。
※秋川橋架橋(明治33年)で起点～留原への道は権田坂～秋川橋経由になった。

3. 小峰隧道(①参照)開通で乗合自動車の営業が始まった旧道(旧秋川街道)。
4. 全区間を新小峰トンネル(②参照)が通る現在の都道32号線(現秋川街道)。

① 小峰隧道（旧小峰トンネル）

大正5年(1916)2月竣工。全長79.4m/幅4.3m/高3.5m。新道(当時)が開通したことにより自動車で峠を越えられるようになった。新小峰トンネルの開通に伴い平成14年(2002)に峠越の道は80余年の長い使命を終えた。

② 新小峰トンネル

狭い小峰隧道とカーブが多い旧道に替わり、小峰峠をくぐり抜ける直線的なトンネル。全長656m/幅10.25m/高4.7m。平成11年(1999)竣工。3年後に新都道32号線開通。

③ 石灰岩の壁

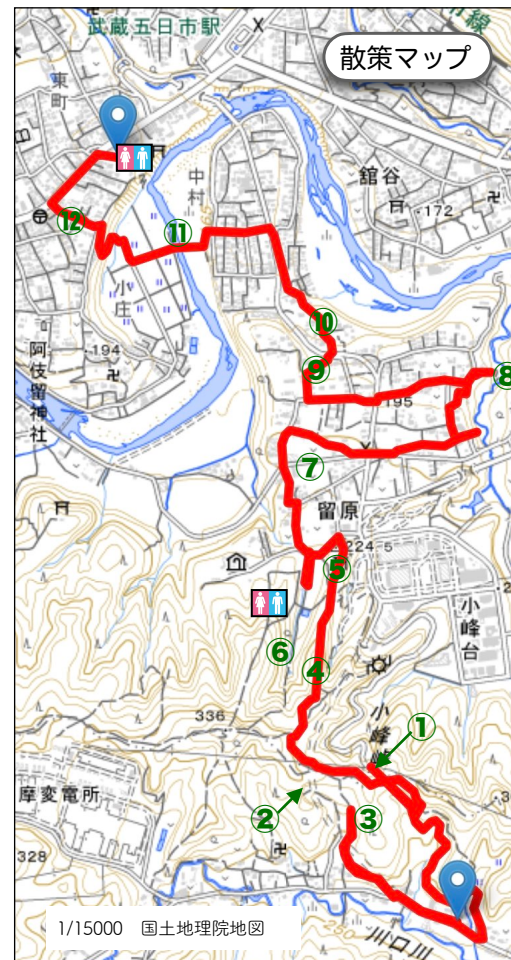
大きな灰色の岩は石灰岩。このあたりは数十年前の住宅地図に「八王子鉾山採石所」と記されており、明治後期(地元古老談)から昭和の終わりのころまで、石灰石を掘ったりそれを焼成して出荷したりしていたという。

④ 桜山（小峰公園内）

お花見の名所。昭和3年(1928)春、留原の人々が約千本の桜の苗木を植樹。それ以前はまぐさ場と呼ばれる雑草地だった。刈り採った雑草等は肥料として畑に鋤きこまれた。

⑤ 八坂神社（通称 天王様）

祭神は、素戔鳴尊(=牛頭天王)ほか2柱。創立年代不詳だが、元文5年(1740)の棟札が残っている。昭和25年(1950)天王沢添いから現在地に移転した(崩落危険のため)。明治の神仏分離までは牛頭天王社で、留原村の総鎮守として隣にあった天王山地蔵院が別当として奉仕していた。明治43年(1910)、地藏院は廃寺となり高尾の大光寺に合寺された。



⑥ 都立小峰公園

平成2年(1990)開園。約11ha。都立秋川丘陵自然公園内にあり、豊かな自然とふれあいながら、手軽にピクニックやハイキング、四季の草花を楽しめる野外レクリエーションの場所として親しまれている。

● 古道・旧道沿いに残る石造物

○ 珪化木(けいかぼく)の石造物

珪化木は木の化石。長期間を経て木の中身が二酸化「ケイ」素に変「化」した「木」。ケイ素の代わりに炭素に置き換わると石炭となる。市内では留原に多く見られる。

- ・百番供養塔(桜辻) 文化9年(1812)
- ・百番供養塔(山下家) 天明7年(1787)
- ・寒念仏供養塔(留原会館内) 明和6年(1769)

○ その他の石造物

- ・馬頭観音(小峰峠) 文政5年(1822)
- ・庚申塔(桜辻) 寛政2年(1790)
- ・回国巡礼塔(桜辻) 文化8年(1811)
- ・山下家道祖神道標 大正9年(1920)
- ・篠村家天王山道標 嘉永4年(1851)

⑦ 農免道路（通称）

天王橋とともに昭和43年に完成した高尾～留原～小和田を最短距離で結ぶ新道。それまで集落境は狭く急な砂利道と狭い小橋だった。このころから人口は急激に増えていった。

⑧ 天王沢の高尾への渡河点

かつて(ほんの少し前まで)は高尾への生活道だった。狭い谷に下りるが天王橋より近い。

⑨ 下隠居坂

五日市からの八王子道は、小林坂とこの坂を上り小字七軒町へと続いた。

⑩ 小林坂旧道

名主の小林家があったことに由来(諸説あり)。今は広い新道を路線バスが走る。

⑪ あゆみ橋

平成13年(2001)架橋。八王子道はこのあたりで秋川を渡った。かつて中村側には大きな寒念仏と水車があり、小林坂に出る道は「くるま道」と呼ばれていたという。

⑫ 富田屋横丁

昔の八王子道の出发点。狭い横丁に商店や飲食店が建ち並び大いに賑わった。

